

「イサクの嫁取り物語 3」

2021年02月19日

そこで彼らは、「娘を呼んで直接聞いてみましょう」と返事をし、リベカを呼んで、「この人と一緒に行くか」と尋ねた。すると、彼女は「行きます」と答えたので、彼らは妹のリベカとその乳母、アブラハムの僕とその従者たちを送り出すことにし、リベカを祝福して言った。(創世記 24 章 57 節～60 節)

アブラハムの忠実な僕は、アブラハムの親戚の娘リベカに出会い、その兄ラバンの家に丁寧に迎えられた。食事が用意されたが、僕は要件をお話しするまでは、いただくわけにはいかないと、ラバンから「どうぞ、お話してください」と言われ、僕は話し始めた。主人アブラハムは、神に祝福された富豪で、独り子イサクに財産を譲られた。イサクの妻になる人は主人の故郷の人でなければならないと、私は嫁取りの任を受けた。この地に辿り着き、祈った。リベカによって、私が祈った通りのことが起こった。私はひれ伏して、神が正しい道に導かれ、主人の息子イサクに、主人の兄弟の娘を迎えるようにされたと、主を称えた。主人に慈しみとまことを示してくださるなら、イサクの妻としてリベカを嫁がせると言ってください。お断わりになるのであれば、そうでないと言ってください。ご返答によって、私はどうするか決めなければならない。神が導いた出来事として、誠実に、切々と語る僕の言葉を聞いて、ラバンとベトエルは「これは主からでたことですから、私どもはその良し悪しを言うことはできません。ここにリベカがおりますので、連れて行ってください。主が言われたように、ご主人の息子の妻にしてください」と答えた。神の導きで、親戚の金持ちの息子との結婚は、いわば「玉の輿」で、反対する理由がない。リベカの了承は得ていないが、家長が決めれば、その通りに従わなければならない。しかし、リベカは心の内で結婚に同意していた。僕は感謝し、金や銀の品物、衣服をリベカに贈り、高価な品物をラバンと母に贈った。イサクの嫁取りは成功裡に終わった。安堵した僕と従者たちは食事を取り、一夜を過ごした。次の朝、ラバン家の人々が起きた時、僕は「主人のもとに帰らせてください」と申し出た。昨日、縁談が決まり、今日、リベカを連れて行くと言う。ラバンと母は 10 日ほど私たちのもとに留め、それから行かせましようと言うと、僕は「この旅の目的をかなえてくださったのは主なので、私を引き止めないでください。私を送り出して、主人のもとに行かせてください」と言った。彼らはリベカに直接聞いてみましょうと「この人と一緒に行くか」と尋ねると、彼女は「行きます」と答えた。リベカは決断力のある女性である。彼女は、僕の主人に対する忠実さを見て、主人は立派な人で、その人の息子なら、結婚してもよいと思ったのではないか。良い主人は良い僕を持つのである。ラバンは「妹よ、あなたから幾千万の民が出るように。あなたの子孫は敵の門を勝ち取るように」と祝福を祈った。ラバンの祈りはイサクとリベカ夫婦によって、実現することになる。リベカと侍女たちはらくだに乗り、僕の後について行った。僕は主人アブラハムから受けたイサクの嫁取りの任を果たし、帰途に就いた。

夕暮れ時、イサクは妻となる人が来るのを待って、野原を散歩していた。遠くにらくだの一隊が見えた。リベカも目を上げてイサクを見、「あの男の人は誰ですか」と問うと、僕は「あの方は私の主人です」と答えた。リベカはベールを取り出し、かぶった。彼女の初々しい恥じらいである。イサクはリベカを天幕に入れ、妻とした。イサクは彼女を愛し、母の死後の慰めを得た。温和なイサク、決断力と愛に富むリベカは良い夫婦になっていく。